

Cisco CallManager 3.0(1) インストール手順

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[Cisco CallManager 3.0\(1\)に関するDNS 問題](#)

[関連情報](#)

概要

Cisco CallManager リリース 3.0(1) には、Cisco CallManager がインストールされているサーバのドメイン ネーム システム (DNS) 設定に関する複数の既知の警告があります。 インストールプロセス中に構造化照会言語 (SQL) による DNS への依存関係があるため、Cisco CallManager を正常にインストールするには DNS が必要です。 ただし、インストールが完了すると、特定の基準を満たしている限り、Cisco CallManager は DNS なしで実行できます。 また、DNS機能させると、すべての既知の警告を回避するようにしてください。

前提条件

要件

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco CallManager 3.0(1) に基づくものです。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。 このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

[Cisco CallManager 3.0\(1\)に関するDNS 問題](#)

これは Cisco CallManager 3.0(1) に関する既知の DNS 問題のリストです。

- [DNSサフィックスをネットワークIdentタブの会議にCSCdr64159 \(登録ユーザ専用\) - CMが起動しない](#)
- [CSCdr43467 \(登録ユーザ専用\)](#) クラスタ内コールで、CMが逆DNSエントリを取り入れることに失敗する
- [CSCdr66639 \(登録ユーザ専用\)](#) 完全修飾ドメイン名 (CallManagerは使用しません

これらのインストーラのバグと同様、：

- [CSCdr46034 \(登録ユーザ専用\)](#) は、ワークグループとServ.name向け-使用できません-または_Spirianインストールします
- [CSCdr65911 \(登録ユーザ専用\)](#) - Spirian CDはMCS-7830でCompaqユーティリティが正しくインストールされていません
- [CSCdr65502 \(登録ユーザ専用\)](#) ファームウェアをプログラムし直した後 (Spirianはリブートを必要に応じてインストールします
- [CSCdr66413 \(登録ユーザ専用\)](#) - Spirian CDは機能ステータスにCallManagerはインストールされません

ここでは、こうした問題の回避方法について説明します。

全体のOS CD (ディスク1) はこの点に留意します。 Cisco Bug ID CSCdr65502 ([登録ユーザ専用](#)) にインストール プロセスで実行できます。 画面がこの画面で10分以上ハングしたら、先に進み、マシンをリブートするとインストールが正常に継続される。 この問題は、BIOSの古いバージョンのマシンに起因します。

: Running array F/W Update

: COMPAQ H/W Upgrade Utility 4.0.1A (R)

: Reprogramming Firmware

DO NOT RE-BOOT OR POWER CYCLE MACHINE!!!

注: CDはCisco Bug ID CSCdr46034 ([登録ユーザ専用](#)) のためにディスク1インストール時にホスト名にハイフンまたはアンダースコアを使用することはできません。 変更が必要になったときに、インストール プロセスのこの回避策の一部として後で実行されます。 ここでは、ハイフンや下線なしで名前を入力します。

最初のCDをインストールした後、すでにIPアドレス情報、およびDNSサーバの情報とDNSのサフィックスを入力します。 番号2を挿入する前にCD (SQLなどのDC Directory、およびCisco CallManager) を次の手順を実行します。 インストール:

1. デスクトップの[My Computer]を右クリックし、Propertiesを選択します。 次のダイアログボックスが表示されます。
2. [Properties] ボタンをクリックします。 このボックスの「コンピュータ名」が、このマシンのホスト名として DNS に設定したものと一致する必要があります。 ハイフンやアンダースコアなしでマシン名を入力しましたが、マシン名、ハイフンや下線があるステーション) ボックスに変更します。
3. [More] ボタンをクリックします。 dialogthatでドメイン メンバーシップの変更がオフのとき、このコンピュータのプライマリDNSサフィックスを空白、変更プライマリDNSサフィックスだからです。 Spirian CDであるはこれをインストールします。このようにすることが重要です:コンピュータ名またはダイアログを変更した場合、コンピュータを再起動する必要があります。 すべての会話が実現した後に再起動するように求められます。
4. 対象のCisco CallManagerのホスト名が、DNSサーバで逆DNSエントリのホスト エントリお

よびPTRレコードを両方に含まれていることを確認します。この逆 DNS エントリがないと、Cisco CallManager のクラスタリングは機能しません。

DNSを使用しなければ、サーバがまったく設定されているDNSサーバがないように、すべてのDNS設定ダイアログボックスが空であることを確認します。IPアドレスが、Cisco CallManagerの名前として使用されても、逆DNSに依存します。

DNSサーバが発生しない限り、LMHOSTSファイルを編集し、IPアドレスにクラスタのコンピュータや他のコンピュータのホスト名のマッピングに手動で配置します。LMHOSTSファイルはC:\WINNT\system32\drivers\etcディレクトリを参照してください。このファイル形式の手順はファイル自体に含まれています。

次の回避策を実装したら、2番目のディスクをインストールし、手動でCDのCisco CallManagerのインストーラを実行します。

Cisco CallManagerをインストールした後、Cisco Bug ID CSCdr65911（登録ユーザ専用）に記述されているCompaqユーティリティ [パーティションの問題に取り組んでください](#)。マシンをきれいに拭き、3.0(2) CD で再インストールしないと、F10 キーは再機能するようになりません。一方、ユーティリティはフロッピーディスクから必要に応じて実装できます。ユーティリティはCompaq Webサイトからこちらからダウンロードできます:

http://h20000.www2.hp.com/bc/docs/support/SupportManual/c00280248/c00280248.pdf?jumpid=reg_R1002_USEN

手順を順を最初のコピーディスクからファイルとブート、手順に基づいて4つのフロッピーディスクを作成します。

関連情報

- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)